1月24日を虐待防止デーに

野田女児死亡事件 市の合同委で提案

野田市立小4年だった栗原心愛さん＝当時(10)＝が昨年1月に死亡した虐待事件をめぐり、再発防止策を検討する市の合同委員会が7日開かれ、事件の風化を防ぐために「児童虐待防止デー」を設けることを、有識者が提案した。

委員を務めるジャーナリストの江川紹子さんは「今回の事件を引き継ぎ、『二度とないように』との思いを常にフレッシュなものにしておく努力が必要だ」と指摘。心愛さんが亡くなった1月24日を「野田市児童虐待防止デー」とし啓発イベントを開くことなどを提案した。日本大危機管理学部の鈴木秀洋准教授は「新型コロナウイルス禍で虐待対応に制約が生じる中、子供や保護者との心的距離を縮める努力が求められる」と述べた。

委員会は今回で終了。市は今後も虐待防止条例の策定やマニュアルの追加作成に取り組む方針。

事件では父親が傷害致死などの罪に問われ、今年3月、1審千葉地裁で懲役16年の判決を受けた。虐待を訴えた学校アンケートを父親に渡した市教育委員会や一時保護を解除した児童相談所の対応が問題となり、市が1月に公表した検証報告書は、連携不足や危機感の欠如があったと指摘していた。

2020.8.8産経

「虐待防止の日」提言

1月24日 野田市の合同委

とどかぬ心

野田小4死亡

昨年1月に野田市の小学4年、栗原心愛さん(当時10)が父親の虐待で死亡した事件で、再発防止策を検討してきた野田市の合同委員会の最終回が7日、市役所で開かれた。委員から心愛さんが亡くなった命日の1月24日を「児童虐待防止デー」にして事件の風化を防ごうという提言が出された。市も検討する。

事件をめぐり、県は個人情報保護を理由に、新たな虐待死事件の情報は、児童相談所の関わりを含めて一切公表しない方針を固めていた。野田市の今村繁副市長は「ちょっと趣旨がわからない。個人情報でも再発防止に資することは児相の関与も含めて、必要な公表をしなければいけない」と県の対応を批判した。

委員会では、警察との連携の強化やスクールロイヤーの積極的活用を求める意見などがあったという。委員で日本大学危機管理学部の鈴木秀洋准教授は「要保護児童対策地域協議会が当事者意識を持ち、各機関の役割分担をマニュアルに書いていく必要がある。この部分は合意が十分できた」と話していた。

〈古賀大己〉

2020.8.8朝日

風化させず再発防止を

野田市 虐待防止委が最終会合

会合後の会見で説明する委員の鈴木・日本大准教授＝7日、野田市

野田市立小4年の栗原心愛（みあ）さん＝当時10歳＝が昨年1月に死亡した虐待事件を受け、市の対応を検証する「市児童虐待事件再発防止合同委員会」は7日、最終会合を開き、今年1月公表された検証報告書に併記する意見をまとめ合った。

市によると、委員でジャーナリストの江川紹子氏は「時間が過ぎると記憶は薄れる。（風化させない）思いを市民全体で共有するため（心愛さんが自宅で死亡した）1月24日を虐待防止デーにし、毎年記憶をよみがえらせたら」と提案。ほかにも「警察との連携が必要だったと指摘すべき」「スクールロイヤーに相談しやすい体制づくり」といった意見が出た。

会見した委員の鈴木秀洋日本大准教授は「（事件の反省を踏まえ）関係機関が当事者意識を持ち、内実の伴った支援体制を運用することが大切だと委員間で合意できた」と述べた。

虐待死事件が県内外で相次いでいることについては「心愛さんは命と引き換えに多くのことを教えてくれた。報告書（の指摘した観点）はその後の事件にも当てはまる。広く読んでほしい」と呼び掛けた。

委員長を務めた今村繁副市長は「再発防止策は道半ば。委員会は終了するが、今後も委員だった専門家の助けを得て取り組む。虐待防止条例は作りたい。児童虐待防止宣言も検討したいといけない」と説明した。

報告書と委員の意見は8月末、市児童福祉審議会から市長に答申される。

2020.8.8千葉日報

野田虐待死 心愛さん命日「防止デー」に

有識者委最終会合 副市長 検討の方針

昨年1月に野田市の小学4年栗原心愛さん（当時10歳）が虐待死した事件で、市の有識者委員会（委員長・今村繁副市長）の最終会合が7日、開かれた。

出席したジャーナリストの江川紹子さんは、心愛さんが亡くなった1月24日を「野田市児童虐待防止デー」とし、啓発活動などを行うことで心愛さんが生きた証しを残し、虐待根絶に向けた思いを新たにするよう提案した。今村副市長は「事件を決して忘れず、再発防止策を進めたい」などと、検討する考えを示した。

県内では6月、市原市で生後10か月の女児の衰弱死事件が発覚。同市が家庭訪問の不備を認め、謝罪する事態となり、野田の虐待死事件の教訓が生かされていないと批判された。その後も東京都大田区で子供が餓死するなど、痛ましい事件は後を絶たない。

会合後、記者会見した鈴木秀洋・日大准教授は「心愛ちゃんが私のSOSはまたも無視されるのかと悲しんでいるように思えてならない」とし、「自治体はそれぞれのマニュアルなどを確認し、学び続ける必要がある」と述べた。

鈴木准教授は新型コロナウイルスの影響で、児童相談所の職員が直接家庭を訪問し、虐待対応にあたることが難しくなっていると指摘。リモートで会議をしたり、家庭とつながったりして、相談しやすい環境を整えることが重要だと訴えた。

委員会がまとめた検証報告書やマニュアル、委員らの意見は今月下旬、野田市の鈴木有市長に提出される。

2020.8.8読売

虐待防止条例制定へ

野田市 心愛ちゃん事件受け

2019年1月に野田市の小学4年、栗原心愛さん（当時10歳）が虐待で死亡した事件で、野田市の今村繁副市長は7日、市再発防止合同委員会後の記者会見で、虐待防止条例を制定する考えを示した。

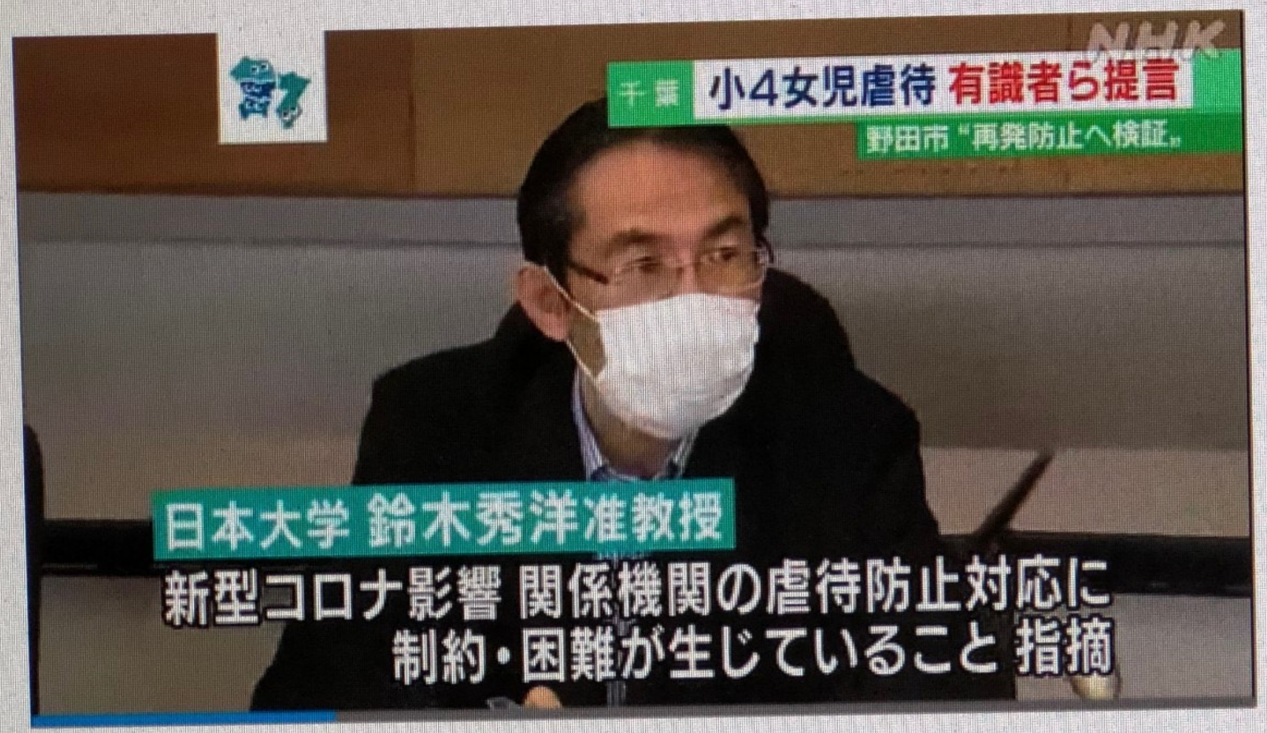
同委員会委員のフリージャーナリスト、江川紹子さんから「心愛ちゃん事件を忘れないため条例制定などをしてほしい」との意見を受けたもの。児童、高齢者、障害者を含めすべての虐待に対応した条例にする考え。

児童虐待根絶宣言や心愛さんの亡くなった1月24日を児童虐待防止デーにするといった江川さんからの提案についても、今村副市長は「検討したい」と前向きな姿勢を示した。この日の委員会は最後の開催となり、今年1月公表の専門家による検証報告書に外部委員から出た意見が併記されることになった。報告書をまとめた日本大の鈴木秀洋准教授（行政法）は「これ以上ないくらい十分やった。他の虐待事件でも報告書を生かしてほしい」と訴えた。【横木利昭】

2020.8.8毎日

野田虐待事件 有識者委が提言

08月07日　16時32分



千葉県野田市で小学４年生の女の子が虐待を受けた末に死亡した事件の検証を行ってきた有識者委員会の最後の会合が開かれ、新型コロナウイルスで虐待防止の対応に制約が出る中、子どもや保護者が相談しやすい環境が求められるという提言が出されました。

去年１月、野田市の小学４年生、栗原心愛さん（１０）が虐待を受けた末に死亡した事件を受けて、市は有識者委員会を設けて再発防止に向けた検証を行ってきました。
7日に開かれた最後の会合では、児童虐待の問題に詳しい日本大学の鈴木秀洋准教授が新型コロナウイルスの影響で、関係機関の虐待防止の対応に制約や困難が生じていることを指摘し、「子どもや保護者がより相談しやすい環境をつくることが求められている」と提言しました。
また、ジャーナリストの江川紹子さんは心愛さんの命日の１月２４日を市の児童虐待防止の日として事件の風化を防ぐことを提言しました。
こうした提言について野田市の今村繁副市長は「心愛さんの事件を決して忘れず再発防止策を進めていきたい」と話しました。